

定期試験予想問題

中3国語 標準 1

教科書 P 134—136・139—144

学習日 6月 1日

名前 []

得点 [/ 140 点]

1 3 1 1 50点

〈古今和歌集「仮名序」・全体の構成と読解〉

- ◆ 〈古今和歌集「仮名序」〉をていねいに読んでまとめていこう。
- ◆ 次の〈古今和歌集「仮名序」〉を二回ていねいに音読しなさい。
- ◆ そのあと、指示にしたがって問いに答えなさい。

① やまとうたは、人の心を種として、
 よろづの言の葉とぞなれりける。
 世の中にある人、② ことわざ繫きものなれば、
 ③ 心に思ふことを、
 見るもの、聞くものにつけて、言ひ出せるなり。
 花に鳴く鶯、水にすむ蛙の声を聞けば、
 生きとし生けるもの、
 ④ いづれか歌をよまざりける。
 力をも入れずして、天地を動かし、
 目に見えぬ鬼神をも、あはれと思はせ、
 ⑤ 男女のなかをも和らげ、
 猛き武士の心をも、慰むるは歌なり。

問 1 文中の次の言葉の読みを現代仮名遣いのひらがなで書きなさい。(2点×7＝14点)

- | | |
|--------------|-------------|
| (1) よろづ [] | (2) 思ふ [] |
| (3) 鶯 [] | (4) 蛙 [] |
| (5) いづれか [] | (6) あはれ [] |
| (7) 男女 [] | |

問 2 問 1 の答えを確かめたあと、もう一度音読しなさい。

問 3 ① 「やまとうた」とは何ですか。漢字二字で答えなさい。

(4点)

--	--

問 4 ② 「ことわざ繫きものなれば」を口語に訳しなさい。

(4点)

[]

- 問5 ③「心に思ふことを、見るもの、聞くものにつけて、言ひ出だせるなり。」とありますが、どのような意味ですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。(4点)
- ア 心に浮かんだこと、見るもの、聞くものを言葉に出したのが「やまとうた」である。
- イ 見るもの、聞くものを、自分の心で再構成して表現したものが「やまとうた」である。
- ウ 自分の感動を、自分の知っている者に伝えるためのものが「やまとうた」である。
- エ 自分の感動を、見るものや聞くものの事象に託して表現したものが「やまとうた」である。 []

- 問6 ④「いづれか歌をよまざりける」を口語に訳しなさい。(4点)
- []

- 問7 ⑤「歌なり」とありますが、ここで筆者はどのようなものが「歌」だといっていますか。叙述の順にそつて、口語で四つ答えなさい。(4点×4＝16点)
- []
- []
- []
- []

- 問8 本文は「古今和歌集」の「仮名序」の初めの部分です。書いたとされている人物を次から選び、記号で答えなさい。(4点)
- ア 大伴家持おほともり イ 紀貫之おののつらゆき ウ 西行法師さいぎょうぼうし エ 藤原定家ふじわらぢげ []

- 問9 答えを合わせたあと、もう一度音読しなさい。

2 3 1 2 90点

〈万葉・古今・新古今／全体の構成と読解〉

- ◆ 〈君待つと——万葉・古今・新古今〉をていねいに読んでまとめていこう。
- ◆ 教科書を通読しなさい。そのあと、指示にしたがって答えなさい。

▼万葉集

〈成立〉

① 「」時代終わりごろ。

〈巻数・歌数〉

② 「」巻・約③ 「」首。

〈内容・特色など〉

- (1) 現存する日本で④ 「」歌集である。
- (2) 作者層は、天皇・皇族から庶民しよみんまで広い階層にわたっている。
- (3) 東国の素朴な民謡風の⑤ 「」、九州北岸の防備のために主に東国から集められた兵士の⑥ 「」などの特色ある庶民の歌がある。

問1 「」①～⑥に入る言葉として適切なものを選び、右に書きこみなさい。

- ① 飛鳥 奈良 平安 (1点×6＝6点)
- ② 十 二十 三十
- ③ 千百 千九百八十 四千五百
- ④ 最古の 二番目に古い
- ⑤ 雑歌ぞうか 東歌とうか 挽歌ばんか
- ⑥ 雑歌 東歌 防人歌ぼうにんか

▼古今和歌集

〈成立〉

⑦ 「」時代初め。

〈巻数・歌数〉

⑧ 「」巻・約⑨ 「」首。

〈内容・特色など〉

- (1) 最初の⑩ 「」和歌集である。醍醐天皇の命による。
- (2) 繊細優美（たおやめぶり）な歌が多い。後の「⑩」和歌集の規範とされた。
- (3) 文学史上最初の文学論である⑪ 「」（紀貫之の文章とされる）が初めに示されている。

問2 「 」⑦⑩に入る言葉として適切なものを選び、右に書きこみなさい。
(1点×5＝5点)

- ⑦ 奈良 平安 鎌倉
- ⑧ 十 二十 三十
- ⑨ 千百 千九百八十 四千五百
- ⑩ 勅撰 私撰
- ⑪ 真名序 仮名序

▼新古今和歌集

〈成立〉

⑫ 「 」時代初め。

〈巻数・歌数〉

⑬ 「 」巻・約⑭ 「 」首。

〈内容・特色など〉

- (1) 八番目の⑮ 「 」和歌集である。後鳥羽上皇の命による。
- (2) 洗練された言葉とさまざまな修辞を用い、浪漫的・象徴的な歌が多い。

問3 「 」⑭⑮に入る言葉として適切なものを選び、右に書きこみなさい。
(1点×4＝4点)

- ⑫ 奈良 平安 鎌倉
- ⑬ 十 二十 三十
- ⑭ 千百 千九百八十 四千五百
- ⑮ 勅撰 私撰

▼万葉集・古今和歌集・新古今和歌集の代表歌人

万葉集

持統天皇 大伴旅人 山上憶良 山部赤人

「 」 「 」 「 」 「 」

古今和歌集

在原業平 小野小町 藤原敏行 凡河内躬恒

「 」 「 」

新古今和歌集

藤原家隆 後鳥羽上皇 式子内親王 宮内卿

「 」 「 」

問4 次の歌人を万葉集・古今和歌集・新古今和歌集に振り分けて右に書きこみなさい。
(1点×6＝6点)

紀貫之 額田王 藤原定家 柿本人麻呂 大伴家持 西行法師

A ①春過ぎて夏来るらし②白たへの衣干したり天の香具山

問5 ①「春過ぎて夏来るらし」を助詞を補いながら口語に訳しなさい。(3点)

[]

問6 ②「白たへの」は「衣」を導きだしている言葉です。このような言葉を何といいますか。記号で答えなさい。(3点)

- ア 掛詞
 - イ 枕詞
 - ウ 序詞
 - エ 縁語
- []

B 東の野に炎の立つ見えて③かへり見すれば月傾きぬ

問7 Bの歌に歌われている「時」として適切なものを選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア 夜明けで、あたりがまだ薄暗い頃。
 - イ 日中の明るい頃。
 - ウ 夕方で日がまさに沈もうとする頃。
 - エ 月が明るい真夜中の頃。
- []

問8 ③「かへり見すれば」とありますが、作者はどの方位をかえり見たのですか。東・西・南・北から一字で答えなさい。(3点)

[]

C 君待つと我が恋ひ居れば我が屋戸のすだれ動かし秋の風吹く

問9 口語に訳しなさい。(3点)

[]

D 天地の分かれし時ゆ 神さびて 高く貴き 駿河なる 富士の高嶺を 天の原 振り
 放け見れば 渡る日の 影も隠らひ 照る月の 光も見えず ④白雲も い行きはばか
 り ⑤時じくそ 雪は降りける 語り継ぎ 言ひ継ぎ行かむ 富士の高嶺は
 へ ⑥ へ

E 田子の浦ゆうち出でて見れば真白にそ富士の高嶺に雪は降りける

問 10 ④「白雲も い行きはばかり」とはどのような意味ですか。次から適切なものを選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア 白雲が激しく流れていて。
- イ 白雲がたくさんかかっている。
- ウ 白雲が日のさすのをさえぎって。
- エ はばまれて白雲の流れがとどこおって。 []

問 11 ⑤「時じくそ」の意味を選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア いつも イ ときどき ウ ときには エ たくさん []

問 12 Dの歌は「長歌」と呼ばれる歌体です。この長歌のあとにそえる短歌(E)を指す言葉がく ⑥ くに入ります。その言葉を漢字二字で答えなさい。(3点)

--	--

山上憶良

F 憶良らは今は罷らく子泣くらくそれその母も我を待つらくそ

問 13 口に入る共通のひらがな一字を書きなさい。(3点)

--

問 14 ⑦「母」とありますが、作者にとっての何にあたりますか。漢字一字で書きなさい。(漢字で書けない場合はひらがな二字で書きなさい。)(3点)

	(漢字で書けないとき) →	
--	---------------	--

G 多摩川にさらす手作りさらさらに⑧何そこの見のこころだ愛しき

⑧

H 父母が頭かき撫で幸くあれて⑨言ひし言葉せ忘れかねつる

⑨

問 15 [⑧]、[⑨]に入る言葉を書きなさい。⑧は漢字二字、⑨は漢字三字の言葉です。(3点×2=6点)

⑧		⑨	
---	--	---	--

問 16 ⑩「何そこの児のこころだ愛しき」、⑪「言ひし言葉ぜ忘れかねつる」を口語に訳しなさい。(3点×2＝6点)

⑩ []
⑪ []

お伴家の持

I 春の園紅にはふ桃の花⑩下照る道に出で立つをとめ

問 17 ⑫「下照る」とありますが、何によつて道が「照る」(光り輝く)のですか。歌の中の言葉で答えなさい。(3点)

[]

古今和歌集

紀貫之

J ⑬人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香にほひける

問 18 ⑬「人はいさ心も知らず」を口語に訳しなさい。(3点)

[]

藤原敏行

K 秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞ⑭おどろかれぬる

問 19 ⑭「おどろかれぬる」の訳として適切なものを選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア 驚かされたことだ。
- イ 気づかされたことだ。
- ウ 目を覚まさせられたことだ。
- エ 肌に感じさせられたものだ。

[]

小野小町

L 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ夢と知りせば覚めざらましを

問 20 Lの歌を口語に訳しなさい。(3点)

[]

M 道の辺に清水流るる柳かげ⑮しばしとてこそ立ちどまりつれ

問 21 ⑮「しばしとてこそ立ちどまりつれ」を口語に訳しなさい。また、この部分に用いられている古文の用法を四字で答えなさい。(3点×2=6点)

[]

--	--	--	--

N 見わたせば花も紅葉もなかりけり⑯浦の苔屋の秋の夕暮

問 22 Nの歌の句切れを次から選び、記号で答えなさい。(3点)

- ア 初句切れ イ 二句切れ ウ 三句切れ エ 四句切れ
オ 句切れなし []

問 23 ⑯「浦の苔屋」の意味を書きなさい。(3点)

[]

O ⑰玉の緒よ絶えなば絶えねながらくば恐ぶることの弱りもぞする

問 24 ⑰「玉の緒よ絶えなば絶えね」とありますが、「玉の緒」は、ここでは「(私の)命」の意です。作者は、どのようになってしまうから「(私の)命よ、絶えるなら絶えてしまえ。」と言っているのですか。簡潔に答えなさい。(3点)

[]